

I-2

塩素系カビ取り剤を安全に使うために

梅雨時などは住まいのカビが気になります。特に浴室は、カビが育つ条件が整いやすく温床となりがちです。長期間放置するとカビの胞子が発芽して目地などに菌糸を伸ばし、落ちにくい頑固なカビとなってしまいます。カビ取りに効果が高い製品として塩素系カビ取り剤がよく使われますが、

使い方に気を付けないと思わぬ事故につながる可能性があります。そのため、製品ラベルには事故防止のための警告文や安全図記号が表示されています。これらの表示から安全に使用するためのポイントを見てみましょう。



**酸性タイプ
と併用不可**

まぜるな危険

塩素系

第一は「まぜるな危険」です。塩素系のカビ取り剤には必ず「まぜるな危険・塩素系」の表示があります。

これは塩素系製品と酸性製品の混合により、有毒な塩素ガスが発生し、死亡事故につながったことがきっかけで、家庭用品品質表示法で両製品への表示が義務付けられました。「まぜるな危険」は、今ではかなり浸透してきています。しかしながら、いまだに塩素ガスの発生が疑われる事故が報告されています。

塩素系カビ取り剤と絶対に混ぜてはいけない酸性洗剤にも必ず「まぜるな危険・酸性タイプ」の表示がありますので、誤っ

て併用しないように気をつけましょう。

思わぬ事故を起こさないために、塩素系カビ取り剤は必ず単独で使うとよいでしょう。



必ず換気

第二は、浴室の換気に気を配り、長時間使用したり、一度に大量に使用したりしないことです。「まぜるな危険」を守っていても、スプレーした微細な霧を吸い込んだり、塩素系カビ取り剤に特有のニオイ（いわゆる塩素臭）で気分が悪くなってしまう

ことがあります。また、今まで大丈夫であった人でも、その時の体調により気分が悪くなることもあります。換気に気を配ることが大事ですが、マスクをするなどして、微細な霧を吸い込まないようにすることも大切です。



目に注意

第三は、液が目に入ったり、皮膚につかないように注意することです。塩素系カビ取り剤には次亜塩素酸ナトリウムという漂白剤にも使われている成分が配合されており、液性は強いアルカリ性です。強いアルカリ性の液は、目に入ると失明のおそれがあり、皮膚につくと皮膚を腐食し、化学やけどを起こすことがあります。

使用する際には、メガネと炊事用手袋を着用するようにしましょう。

また、目に入らないようにするには、目より上にはスプレーしないという使い方も大切です。

もし目に入ったときは、こすらずただちに流水で15分以上洗い流し、痛みや異常がなくても直後に必ず眼科医に受診するよ

うにしてください。受診時には製品を持参するとよいでしょう。



子供に注意

第四は、子どもの手に触れないようにすることです。大人は注意していても、小さな子どもにその認識はありません。子どもを事故に巻き込まぬよう、置き場所に注意しましょう。

塩素系カビ取り剤は浴室を衛生的でキレイに保つのに有用な製品です。“自分は大丈夫”と過信せずに正しい使い方を習慣化すれば事故を未然に防げます。使い慣れた製品かも知れませんが、正しく安全な使用方法を確認して、浴室も気持ちもスッキリと夏を迎えたいものですね。

